

二松学舎大学 ニュース IR

News IR

I R（Institutional Research/インスティテューショナル・リサーチ）は、大学組織において何らかの決定を行う際に、それをサポートするための情報収集と分析を意味します。

二松学舎大学では、大学の機関活動に関するデータ収集・分析を行い、大学がどのような課題を抱えているのか、その課題はどのような要因と関連しているのか、今後どのような意思決定を取り得るのか等を客観的に把握し、政策形成・意思決定を支援するための活動を行っています。

2022年度 2号 (NO.14)

Contents

◆ 学生の実態・満足度調査の実施について	1
◆ 二松学舎憲章	5

◆ 学生の実態・満足度調査の実施について

2022年11月15日～12月5日（延長期間：12月12日～12月22日）にかけて、本学では「学生の実態・満足度調査」を実施しました。これまでは1年次生及び3・4年次生を対象として実施していましたが、本年度から全学年を対象とする悉皆調査を実施しています。

調査はWeb形式で行い、大学生活全般に関する5段階の選択回答方式等（56問）と自由記述方式（2問）で答えてもらいました。

▶本調査の実施目的

①学生の本学の「学び」に対する満足度を定量的に把握すること。

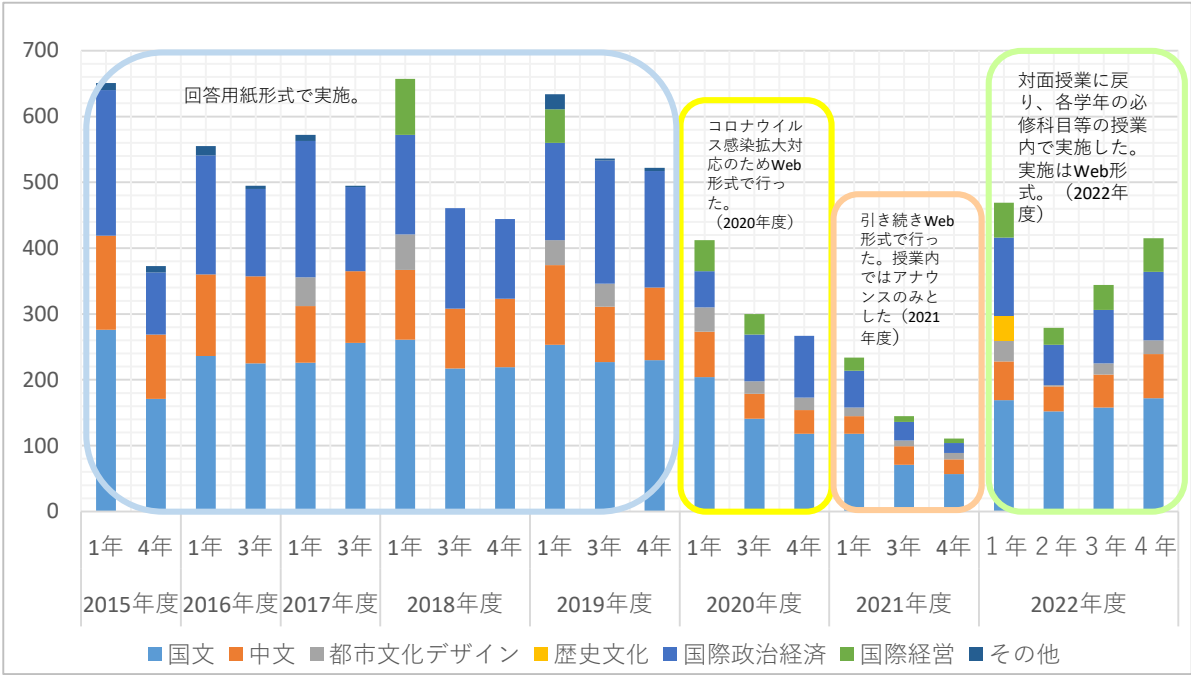
②他大学と比較することで、本学の特徴を定量的かつ可視化して認識すること。

▼ 回答数

回答者数	文学部				国際政治経済学部		合計	回答率(%)
	国文学科	中国文学科	都市文化 デザイン学科	歴史文化学科	国際政治 経済学科	国際経営 学科		
1年	169	59	32	37	119	53	469	61.0
2年	152	38	2	--	61	26	279	38.5
3年	158	50	17	--	81	38	344	49.1
4年	172	67	21	--	104	51	415	54.0
全体	651	214	72	37	365	168	1,507	50.9

※文学部歴史文化学科は2022年度に開設したため、1年次生のみ在籍（回答率：回答数／在籍者数）

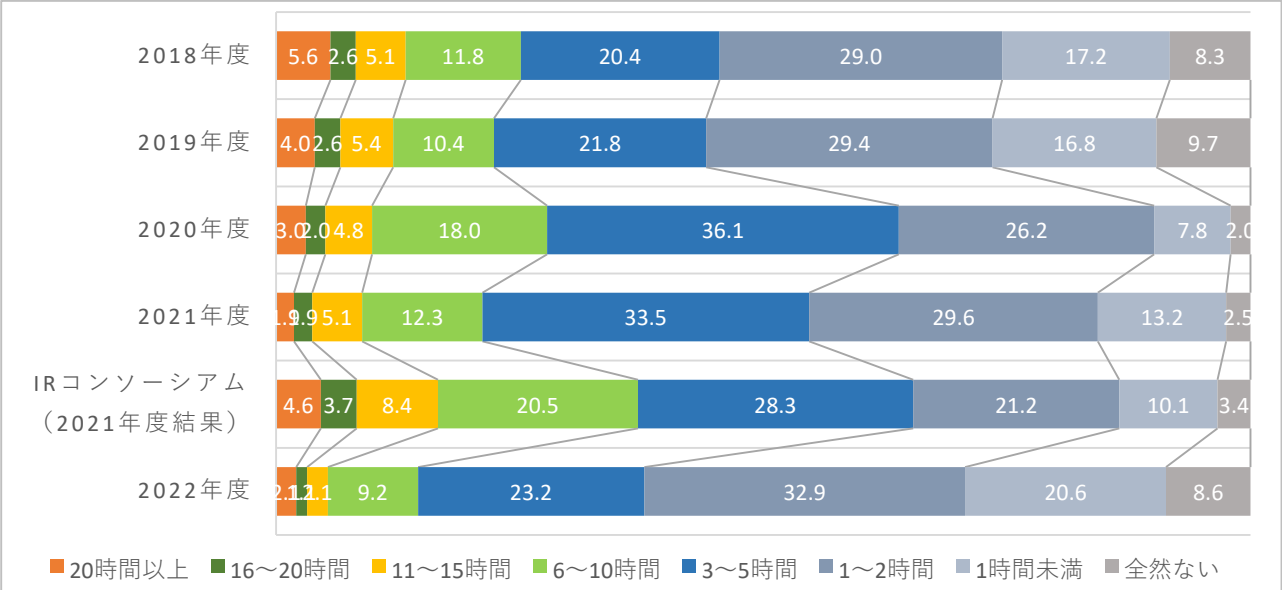
▼ 2015年度から始まった本調査は、当初は回答用紙に記入する形式で、授業内に行っていました。2020年度からは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の措置としてWeb形式で実施し、現在はWeb形式が定着しつつありますが、回答率が低下していたことが課題となっていました。



- 2022年度は対面授業も全面的に再開され、必修授業やゼミナールの授業時間内にWebアンケートを実施したことで、前年度より回答率が増加しました。またゼミナールの指導教員から個別に未回答者に連絡を取り、回答を促進しました。
- 2023年度は、さらに多くの学生に回答してもらい、学生の実態・満足度調査を学生の回答から良いところ、改善が必要なところを分析するアンケートとして、よりよいものにしていきたいと思っています。

● 学生の学修時間について

▼ 満足度調査では、「1週間あたり、〈授業時間以外に授業課題、準備学習・復習をする〉ことにどの程度の時間を費やしたか」を問う設問で学修時間を尋ねています。過去5年間の学修時間の推移を以下に示しました。

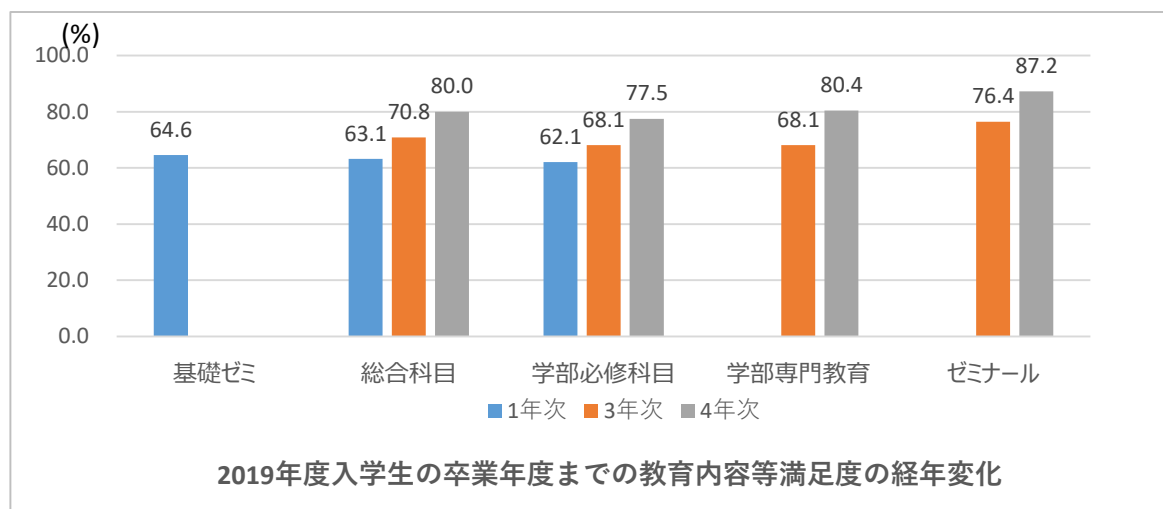


2018年度～2022年度 授業課題、準備学習・復習をする時間（週単位）の変化

- 1週間あたりの授業時間外学習（予習・復習・課題等）に費やした時間が3～5時間以上と回答した割合は、2022年度37.9%、2021年度54.7%、2020年度63.9%、2019年度44.2%、2018年度45.5%となっており、過去5年間の中でも最も低い結果となっています。
- また、ベンチマークとしているIRコンソーシアムの2021年度の同様の数値は65.5%であり、これと比較しても低い数値となっています。
- 大学の授業は単位制に基づき行われており、単位制は授業時間外の学修が前提の制度です。このため、授業時間外学修が適正に行われなければ、授業だけお受講していてもその内容の修得が適正に行えないということになります。授業時間外学修を適正量に増やすには、単位制に対する学生の自覚も必要になります。この醸成をサポートするため、学生への効果的・継続的な啓発活動等の実施などが今後の課題です。

● 2019年度入学生の教育内容等満足度の経年変化

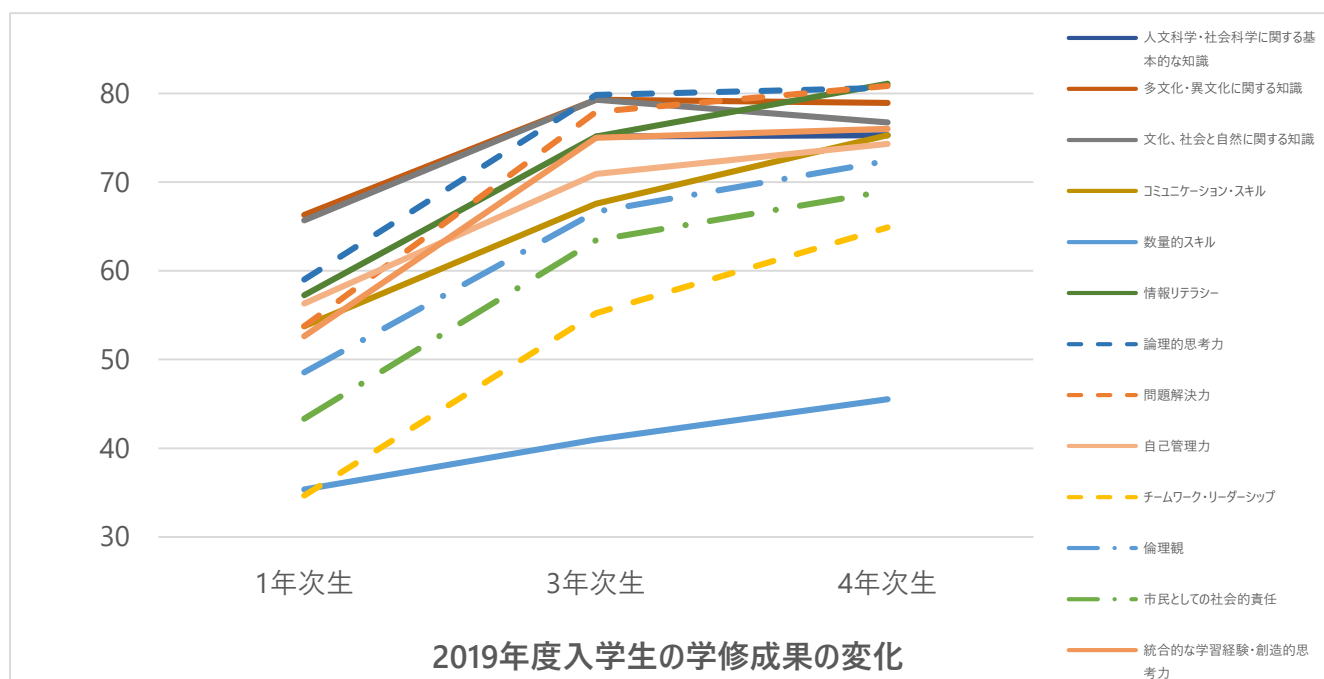
▼ 2019年度に1年次生として入学した学生が、2022年度には4年次生となり、この3月に卒業を迎えました。2019年度入学生の満足度の経年変化を分析し、入学後の学生の修学実態を把握するとともに、大学の教育成果や本学が抱える課題等の検証材料として、学内会議等で報告・検討し、教育改善に活かしています。



- 2022年度の4年生が、2019年度に入学してから教育内容等についてどの程度満足を得たか、その経年変化をみてみました。（「とても満足している」・「満足している」と回答している割合）
- 1年次の初年次教育「基礎ゼミ」については、64.6%の満足度を得られました。なお、基礎ゼミは複数クラス設けられ、それぞれ別の教員が授業を実施しています。そのため、共通テキストを用いてはいますが、クラスにより授業運営が多少異なるなどの状況もあり、満足度に多少のバラツキも見られるため、これを平準化することが今後の課題です。
- その他の科目では年々満足度は増加し、特にゼミナールの3、4年次比較では、76.4%→87.2%と増加しています。
- 自由記述として書かれていた充実の理由にも「ゼミナール」に対する記述が多くみられ、本学の「ゼミナール」教育に対する高い満足度が表れています。

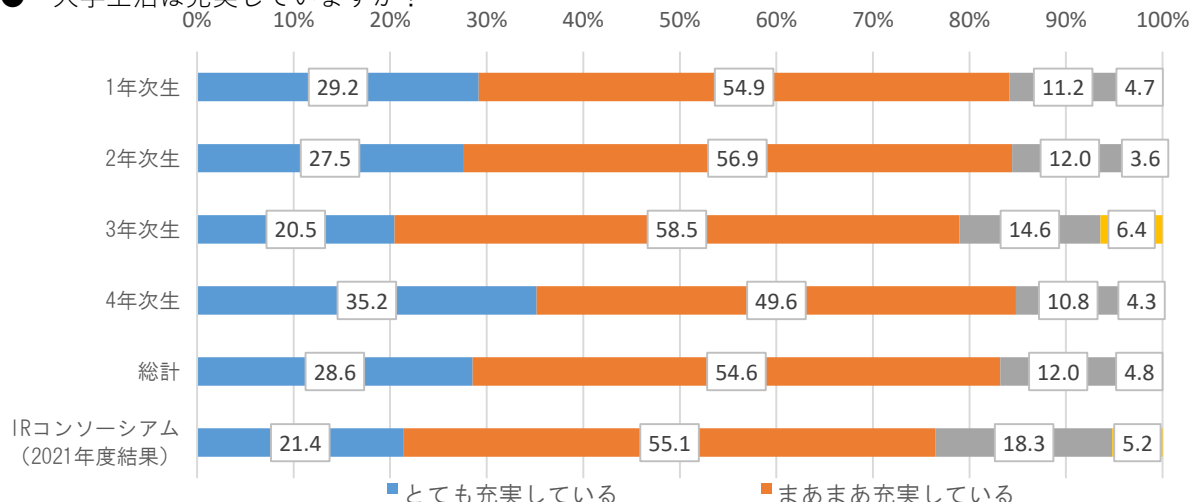
● 2019年度入学生の学修成果の変化

▼ 入学した時点と比較して、能力や知識はどのように変化しましたか（「大きく増えた」・「増えた」と回答している割合）（値は%）



- 「学士力項目の能力等が増えたと思うか」の自己認識を聞いた設問では、「知識・理解」に関する項目の一部で4年次生での割合がやや低下しているものの、論理的思考や情報リテラシー、コミュニケーション・スキル、リーダーシップ力、倫理観、社会的責任などは右肩上がりの成長を示しています。

● 大学生生活は充実していますか？



➤ 全体で「とても充実」+「まあまあ充実」の平均は、83.2%であり、ベンチマークとしているIRコンソーシアムでの学生調査の2021年度集計結果76.5%と比較しても高い数値が得られました。なお、IRコンソーシアムの学生調査は、1年次と上級生（2・3・4年次生）の結果の平均を提示しました。

● 大学生生活は充実しますかという設問において、「その理由」について尋ね、自由記述で答えてもらいました。

▼ 大学生生活が「とても充実している」+「充実している」と答えたグループと「あまり充実していない」+「充実していない」と答えたグループで、その理由についての自由記述にみられた頻出単語を集計し、学年別に可視化しました。

充実度合：大 グループ (n=229)

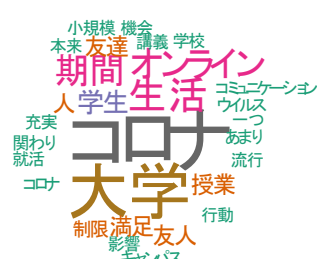
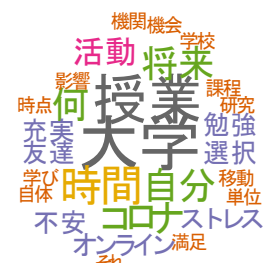


1年次生
2022年度入学

2年次生
2021年度入学

3年次生
2020年度入学

4年次生
2019年度入学

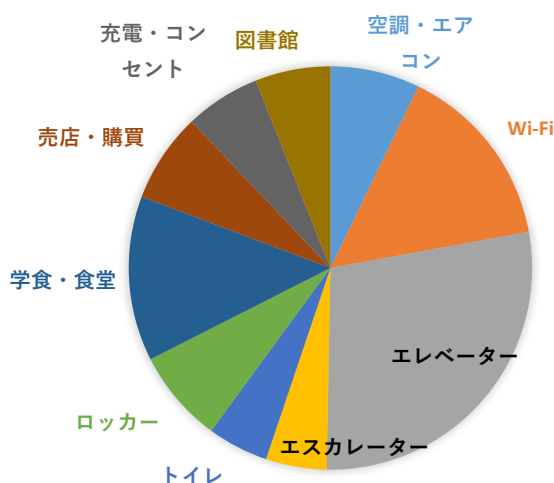


充実度合い：小 グループ (n=31)

- 【充実度合：大グループ】では各学年で「授業が対面になってよかったから」「学びたいことが学べているから」が多く、次に「友達との交流ができていていいから」という記述が多くみられました。また「自分のやりたいことができていいから」ということも多くみられました。学年別でみると、4年次生は、「友人（友達）ができたこと」が大きな理由としている記述が多くみられました。
- 【充実度合：小グループ】では「取りたい授業が取れなかったから」「友達がいないから」「友達と交流できていないから」という記述が多くみられました。学年別でみると、4年次生では「コロナウイルス感染症」のために「大学に来られず」本来経験できることが経験できなかったから、という記述が多くみられました。
- 学年別にみると、コロナ以前に入学した4年次生は、【充実度合：大グループ】では「友人」と支え合い、コロナ禍を乗り切り、ゼミナールを楽しんだという記述が多くみられました。【充実度合：小グループ】では、2・3年次に経験した「コロナ」禍で本来は享受できたはずの大学生活を憂う記述がみられました。
- 4年間のうち、いつコロナ禍を経験したかによって、卒業時に感じる「充実」の理由が変わってくるかどうかは、今後の調査の課題と言えますが、どの学年でも、充実のカギを握るのは、「授業」（含ゼミナール）であることが分かります。
- 本学では、より効果的な授業実施を目指して、これからも教員一同、FDに積極的かつ継続的に取り組んでいきます。

● 最後に大学の施設・設備また教育内容等で改善してほしいところを尋ね、自由記述で回答してもらいました。

今回は、施設・設備について改善してほしいところの設問で多くみられた頻出単語を集計しました。



- 図書館について、現在大学院生にのみ延長して利用を認めている時間帯について、学部生も利用できるようにしてほしい。
- PCやタブレットを授業で使用するため、充電コンセントが増えるとよい。
- 学食や売店のメニューを充実させてほしい。
- Wifi環境を強化してほしい。

といった要望が多く寄せられました。

授業を受ける学生からの教室や学内施設に対する意見から、設備の不備や不具合が分かる場合もあり貴重な情報といえます。

既存のものを活かしながらより良い環境を整えられるよう、自由記述に記載されたコメントを関係部署また各会議等で共有し活用していきます。

【二松学舎憲章】

<建学の精神の発揚>

- ・教職員は、建学の精神「東洋の精神による人格の陶冶」、「己ヲ修メ人ヲ治メ一世ニ有用ナル人物ヲ養成ス」の発揚に努めます。

<教育・研究の目標達成>

- ・人材育成のため、自らその体现者となるべく、自己研鑽に努めます。
- ・法令及び学則を順守し、道徳心と倫理観を持ち、職務に当たります。
- ・現状を把握し、自ら課題を見つけ、教育・研究の質の向上に努めます。

<学生生徒支援>

- ・教職員一人一人が、学生生徒の人格と人権を尊重します。
- ・教育・研究の充実に関心し、教育・研究環境の整備を行い、学生生徒の満足度向上を目指します。

<社会貢献>

- ・教育・研究活動を通じて、地域社会への貢献に努めます。
- ・社会情勢に関心し、国際社会と世界平和に寄与します。

【発行主体】

二松学舎大学

大学改革推進部 I R推進室

〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16

TEL (03)3261-1285

FAX (03)3261-7413

[E-mail] gakumu@nishogakusha-u.ac.jp

2023年 3月 31日発行